

令和 6 年度 事業報告書

自 令和 6 年 4 月 1 日
至 令和 7 年 3 月 31 日

社会福祉法人 空知の風

目次

法人事業報告・・・・・・・・・・	3 ページ
たのしいどう事業報告・・・・・・・・	1 6 ページ
きっちんどう事業報告・・・・・・・・	2 6 ページ
あかるいどう事業報告・・・・・・・・	3 3 ページ
わくわくどう事業報告・・・・・・・・	4 1 ページ
歩～夢 事業報告・・・・・・・・・・	4 8 ページ
地域生活支援事業 事業報告 (楽しく・うきうき・らんらん)・・・	5 6 ページ

令和6年度 法人事業報告

◇はじめに

～令和6年度事業の総括～

令和6年度は、経営基盤の強化を掲げ、令和6年度の報酬改定に対応するために事業を見直し、再編をしてきました。また、今後の利用者の加齢や重度化に向けてバリアフリーの住居を整備すべく土地の確保や建物の設計、補助金の申請等を進めております。

施設整備の面では、「きっちんどう」の作業種の変更に伴って内装のリフォームを行ない、間取りや動線を改善しました。また、アパートタイプのグループホーム1か所を戸建てのグループホームに入れ替えました。

法人が行なう地域公益的な活動は、「地域交流祭」や「ちいき食堂放課後レストラン」その他、街頭募金活動などを行ない、障がい者福祉の啓発と地域への還元に努めました。

利用者の加齢に伴い、通院や健康診断などから入院や手術が必要な疾病が発見されたり、コロナ・インフルエンザ感染などにより利用者の健康維持の重要性が高まっております。体力や機能維持、介護予防のための活動や、健康診断や精密検査は今後も継続して行ない、長く健康に利用していただけるように取り組んでいく必要があります。

令和6年度の重点目標として掲げていた事項としては、

1. 経営基盤の強化

- 令和6年度報酬改定の内容を精査し、適切な事業運営を選択・実施する。
- 利用者の確保に向けたグループホーム事業等の推進。
- 常勤・非常勤の職員の雇い入れを進め、人材の確保と育成に努める。
- 給与規程を見直し、手当の創設などの職員待遇の向上を行なう。
- 育成や教育によって支援の質を向上し、利用者からの信用・信任を向上する。

2. 支援作業種の再編

- 多機能型事業所「きっちんどう」をB型事業所「きっちんどう」へ再編。
- 「きっちんどう」を法人内の昼食提供を担う作業種に変更。
- 利用者の年齢や、状態に応じた活動内容への再編。
- 支援度の高い方も活躍できる活動支援の強化。

3. 施設設備の更新や修繕

- 「きっちんどう」の作業種変更に伴う内部修繕と設備整備。
- 新規グループホームの開設。
- 重度や高齢の方が暮らしやすい住居の建築計画の立案。
- 「歩〜夢」住居外壁の経年劣化の修繕。
- その他、各事業所建物の経年による劣化や損傷に対して、保険や自己財源で補修を行なう。

4. 各種行事や地域公益事業の実施

- 地域交流祭の開催。
- 子ども食堂「放課後レストラン」の開催。
- 地域の活動への協力。
 - ・地域イベントへの協力。
 - ・除雪協力。
 - ・他の社会福祉法人や企業・団体との連携など。

以上の4つを掲げておりました。年間の総括としましては、

1つ目の**経営基盤の強化**については、国の制度の報酬改定があったため、制度の内容を精査し、適切に対応できる様に事業の再編を行ないました。職員雇用を進め、支援体制を整え、利用者支援の充実を図ってまいりました。今後の利用ニーズのためにバリアフリーグループホームの建設計画を進め補助金申請を行ないました。余暇的活動やご家庭からのお預かりのニーズに対応するため、日中一時支援事業「うきうき（きっちんどう）」「らんらん（あかるいどう）」を開設しました。

2つ目の**支援作業種の再編**については、「きっちんどう」を就労継続支援B型事業所に再編し、法人内部の食事提供をメインとする作業に転換しました。また働くことが主軸にならない方も毎日楽しく利用いただけるように生活介護事業も活動支援の充実を図り、創作活動や余暇的活動、健康増進の取り組みを強化しました。

3つ目の**施設設備の更新や修繕**については、「きっちんどう」の内部修繕により間取りや動線が改善されました。またグループホーム「ゆめばえ荘」の開設をしました。バリアフリー住居の建築計画では、設計業者に依頼して図面と概算見積もりを作成し、補助金の申請を行ないました。他には廃車となった送迎車両2台を入れ替えております。

4つ目の**各種行事や地域公益事業の実施**については、「地域交流祭」を開催し、また、地域公益的活動として「ちいき食堂 放課後レストラン」を2回開催しました。その他、地元のこども盆踊りへの出店や赤い羽根共同募金の街頭募金活動や河川の清掃イベントなどへも例年通り参加をし、地域への公益活動に加え福祉の啓発へも取り組むことができました。

■役員会運営

令和6年度は理事会を計5回開催しました。

開催された理事会では、予算や決算、事業報告や事業計画のほかに、今後のニーズへの対応を見越してバリアフリーのグループホームを整備するために、建設用地の取得や規模、構造、資金計画、補助金の申請、設計事務所の選定など具体的な計画について議論を行ないました。また、就労選択支援事業の開設の是非や地域連携推進会議の創設などについても検討を行ない、令和7年度から開設することになりました。

法人全体の事業として、「地域交流祭」の開催や「ちいき食堂放課後レストラン」を2回開催しています。

その他の法人運営に係る理事会運営についても予算執行や各議案について活発かつ慎重な審議を行ない、事業運営を滞りなく実施する事が出来ました。なお、入札等の案件は発生しておりません。



地域交流祭の様子

評議員会は定時評議員会のみ開催しております。

定時評議員会では、事業報告や決算の承認、福祉充実残額の計算結果の確認等が行なわれました。また、人材確保や育成、利用者やその家族の多様化するニーズへの対応、老朽設備の更新など、普遍的な課題についての議論を行ない、今後の運営のために有意義な意見交換を行ないました。

監事監査については、四半期毎に会計監査、運営監査を実施し、実務上の改善事項について助言を頂き理事会で報告をしていただいております。

その他、社会福祉法人会計に長けた会計士事務所による外部監査も継続しており、法令に基づいた適切な会計処理となるように点検を行なっています。



○理事会の開催状況について

	日時/会場	主な内容	出席状況	
			理事	監事
第1回 理事会	令和6年5月21日（火） 15時00分～17時00分 西部連合会館 大広間	・ 令和5年度事業報告の承認 ・ 令和5年度決算の承認 ・ 福祉充実残額計算書類について承認 ・ 決算監事監査報告について承認 ・ 定時評議員会日程及び議案について	6	2
第2回 理事会	令和6年9月12日 書面による決議の省略	・ グループホーム新築整備計画について整備の必要性の協議、用地、規模、構造資金計画など承認 ・ JKAへの補助の申請について承認 ・ 設計事業者の選定について承認	6	2
第3回 理事会	令和6年10月8日 書面による決議の省略	・ 「あかるいどう」近接土地の購入承認	6	2
第4回 理事会	令和6年12月14日 16時00分～17時30分 岩見沢平安閣	・ 補正予算の承認 ・ 規程の変更「経理規程」「管理規程」日中一時支援事業の増による変更について承認	6	2
第5回 理事会	令和7年3月14日 15時00分～17時00分 西部連合会館 大広間	・ 補正予算の承認 ・ 事業の変更及び再編計画について承認 ・ 令和7年度事業計画の承認 ・ 令和7年度予算の承認 ・ 令和7年度定時評議員会日時等 ・ 就労選択支援事業について ・ 地域連携推進会議について	6	1



○評議員会の開催状況について

	日時/会場	主な内容	出席状況		
			評議員	理事	監事
定時	令和6年6月15日（土） 15時00分～17時00分 西部連合会館 大広間	・ 令和5年度決算の承認 ・ 令和5年度福祉充実残額の計算の承認 ・ 福祉充実残額の計算結果の確認 ・ 決算監事監査報告	7	3	2



■監査等の状況について

○監事監査の実施状況について

	日時	対象期間	担当監事	
			業務	会計
令和5年度第4期	令和6年5月14日	令和5年1月1日から令和6年3月31日	網洵 監事	小嶋 監事
令和5年度 決算	令和6年5月14日	令和5年4月1日から令和6年3月31日	網洵 監事	小嶋 監事
令和6年度第1期	令和6年8月21日（業務） 令和6年8月28日（会計）	令和6年4月1日から令和6年6月30日	網洵 監事	小嶋 監事
令和6年度第2期	令和6年11月13日	令和6年7月1日から令和6年9月30日	網洵 監事	小嶋 監事
令和6年度第3期	令和7年2月13日	令和6年10月1日から令和6年12月31日	網洵 監事	小嶋 監事

○外部監査の実施状況について（よつば会計事務所）

	日時	対象期間	内容
第1回	令和6年4月24日（水） 9時30分～18時40分	令和5年4月1日から令和6年3月31日	令和5年度決算書 および明細書確認
第2回	令和6年5月11日（土） 10時00分～17時30分	令和5年4月1日から令和6年3月31日	令和5年度決算書 および明細書確認
第3回	令和6年7月23日（火） 10時00分～16時00分	令和6年4月1日から令和6年6月30日	各科目残高確認 収支状況の確認
第4回	令和6年10月25日（金） 10時00分～17時15分	令和6年7月1日から令和6年9月30日	各科目残高確認 収支状況の確認
第5回	令和7年1月22日（水） 10時00分～17時00分	令和6年10月1日から令和6年12月31日	各科目残高確認 収支状況の確認

■施設整備等について

計画中のグループホーム建設予定地の隣接の土地1筆（約50坪）を購入しました。現状は駐車場や、冬場の雪の堆積に使用する予定です。

また、「きっちんどう」の作業種再編に伴い、内装のリフォームを行なって休憩スペースや支援の動線を改善しました。また、バリアフリーのグループホーム建設計画で、設計事務所に依頼し建築図面の作成と費用の見積もりを行ないました。助成金の申請まで行ないましたが、残念ながら助成金は採択されませんでした。

車両については、「きっちんどう」送迎車が故障により廃車となり、「あかるいどう」送迎車が事故による破損で廃車となったためそれぞれ1台中古車両を購入しています。

◇土地の購入

- ①岩見沢市10条西4丁目19番 165.28㎡（約50坪）
165.28㎡ 1,000,000円（仲介：イエステーション）

◇建物設備整備

①きっちんどう改修工事

○内部改修工事（山崎工業）

1,296,333円

○内部間仕切り工事（山崎工業）

1,861,555円



○玄関改修工事（山崎工業）

1,998,502 円



②きっちんどうエアコン工事（Tiz 岩崎隆志）

671,000 円

◇車両の入れ替え整備

①きっちんどう（中古車）の整備

導入車種：トヨタ ノア X-V パッケージ（平成 28 年式）
価格 1,800,000 円



②あかるいどう（中古車）の整備

導入車種：トヨタ ノア X-V パッケージ（平成 27 年式）
価格 1,800,000 円



■事故報告の状況について

□利用者さんに係る事故

- | | |
|------------------------|-----|
| ①通所からの帰宅途中の交通事故（現在は復帰） | 1 件 |
| ②不適切な言動の支援事案 | 1 件 |

□車両による事故件数

- | | |
|----------------------------|-----|
| ①接触事故 | 2 件 |
| （車同士の接触、雪道の轍による破損事故 けが人なし） | |

■行事の実施状況について

昨年度よりコロナ禍の前のように全体行事を開催しております。レクリエーション大会も復活し、みんなで体を動かして活動をしています。激しい運動は段々と難しくなってきましたが、健康増進や健康維持のためにも体を動かす運動は今後も継続していきたいと考えています。

日 時	行 事 名
令和 6 年 4 月 6 日	事業開始式・辞令交付
令和 6 年 7 月 7 日	地域交流祭
令和 6 年 9 月～10 月	おたのしみ小旅行 日帰り・1泊など選択制
令和 6 年 11 月 2 日	レクリエーション大会
令和 6 年 12 月 21 日	利用者忘年会

■各行事の様子



事業開始式



地域交流祭



おたのしみ小旅行



レクリエーション大会 (ソラリンピック)



利用者忘年会



■ 渉外活動（令和6年度）

渉外活動	職 名	氏 名
空知知的しょうがい福祉協会	理 事	松田 愁司
	代表者	TD 橘・KD 竹治 AD 廣岡・WD 成田 HM 松田
	幹事	廣岡 拓・中山拓哉
・岩見沢市障がい者福祉施策懇話会 ・岩見沢市障がい者サポート協議会	委 員	橘 正樹

■ 権利擁護委員会活動（苦情解決・虐待防止・身体拘束適正化）について
令和6年度の委員構成

- ・たのしいどう（受付担当者：長島 史弥）（第3者委員：小松 大記）
- ・きっちんどう（受付担当者：木村 清子）（第3者委員：小嶋 孝之）
- ・あかるいどう（受付担当者：石郷岡晴美）（第3者委員：小嶋 孝之）
- ・わくわくどう（受付担当者：成田 純一）（第3者委員：藤田 雅子）
- ・歩 ～ 夢（受付担当者：北野 聖子）（第3者委員：藤田 雅子）
- ・権利擁護委員会 担当：石郷岡晴美

権利擁護の取り組みについては、それぞれの事案の有無について全体スタッフ会議で共有し、協議を行なっています。また、権利擁護や虐待防止に関する外部研修会に職員を参加させ、そのフィードバック研修を内部研修として実施しています。また、今年度は「令和6年度障害者虐待防止・権利擁護指導者養成研修」の動画視聴の受講を実施し、その後、習熟度確認テストを行なっています。

第三者委員も交えた年度の総括会議では、各事業所の苦情受付の状況や虐待防止の取り組みなどについて概要を報告し、第三者委員からご意見をいただきまとめています。

○ 苦情解決委員会の開催状況について

	日時/会場	主な内容	出席状況		
			管理者・課長	受付担当者	第3者委員
令和6年度 総括	令和7年4月22日（火） たのしいどう	・令和6年度各事業所の苦情受付状況報告 ・第三者委員からの質疑・意見 ・令和7年度苦情解決体制の確認 ・権利擁護、虐待防止に向けて ・身体拘束適正委員活動について	9	5	3

■職員研修について

研修計画に則り、内部研修および外部への研修を行なっております。

	日時	研修内容	講師
第1回	令和6年10月26日（土）	「社会保険制度等について」	よつば会計事務所 岡田 光次郎 氏
第2回	令和6年10月26日（土）	「災害対策研修会フィードバック研修」	非常災害対策部門 渡辺・廣岡拓
第3回	令和6年12月28日（土）	「権利擁護研修（交際・結婚の支援）」	橘 総合施設長 松田 施設長
第4回	令和6年12月28日（土）	「権利擁護研修（意思決定支援）」	松田・廣岡・中山
第5回	令和7年2月22日（土）	「感染症対策研修会」嘔吐物処理訓練等	廣岡・北野
第6回	令和7年3月22日（土）	「災害対策研修会（BCP）」	中村拓・中筋

■地域公益的活動について

法人の地域公益的な活動については、岩見沢市主催の河川敷清掃イベントへの参加、町内会の子供盆踊りの出店参加、赤い羽根共同募金活動、子ども食堂の開催などを行ないました。子ども食堂については、市内の高校生のボランティアとも共同しております。次年度についても地域公益活動の充実を図って実施して参ります。



■利用者現況調べ（令和7年3月31日現在）

① 年齢構成（単位：人）

	～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳～	合計人数
男性	1	15	27	14	1	5	0	63
女性	0	9	18	8	3	1	0	39
総数	1	24	45	22	4	6	0	102

平均年齢：男性 35.9 歳、女性 36.7 歳、全体 36.6 歳

②障害支援区分

	なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	平均区分
男性	17	1	12	11	13	8	1	3.39
女性	4	1	5	3	10	11	5	4.14
総数	21	2	17	14	23	19	6	3.72

■工賃の支払い状況（単位：円）

①工賃支給比率

事業名	資金収入額(円)	工賃総額(円)	のべ支給人数(人)	支払比率
たのしいどう	18,729,318	7,400,800	441人	39.5%
きっちんどう	13,496,694	5,799,800	210人	43.0%
あかるいどう	571,149	471,000	252人	82.5%
わくわくどう	16,882,099	6,747,000	186人	40.0%
全事業合計	49,679,260	20,418,600	1089人	41.1%

②利用者工賃額

事業名	工賃総額(円)	のべ支給人数	平均工賃額	うちB型のべ 工賃支給人数	うちB型事業平均
たのしいどう	7,400,800	441人	19,455	249人	26,068
きっちんどう	5,799,800	210人	35,023	210人	35,023
あかるいどう	471,000	252人	1,869		
わくわくどう	6,747,000	186人	40,450	186人	40,450
全事業合計	20,418,600	1089人	24,199	645人	33,847

令和6年度 たのしいどう 事業報告

1. 令和6年度事業の総括

令和6年度は、コロナウイルスが5類感染症に位置づけられた事により、利用者さんの楽しみを少しでも増やせたらと法人での行事取り組みを以前の様に全体で行なう事が出来ました。外出行事では、様々な特性の利用者さんがいる事や感染症を考え、少人数で楽しめるように日帰り旅行と宿泊旅行を6コースに分けて企画し実施しました。久しぶりの外出という事もあり、利用者の皆さんはとても楽しんでくれています。

その他、レク大会や忘年会などの行事も、各事業所の皆さんが顔を合わせ触れ合う機会にもなりました。昼食では、毎月1回選択メニューを取り入れて食の楽しみも提供できたと思います。

楽しみが増えることにより、利用者さんの利用率や、作業・活動へのモチベーションに繋げる事も出来ています。

生産活動では、下請作業で新たな取り組みを始め、フリーペーパーのチラシ折り込みやポスティングへ挑戦しています。製造班では、新規の取引先も増えて順調に進める事が出来ました。しかし、マドラー作業では相手先のJALの在庫状況により受注が突然止まり利用者さんの作業が無くなる等、見通せないこともありました。一つずつの仕事を丁寧に取り組む事を大切にする事や、継続的な作業の取得で、積み重ねは大きな成果や達成感、仕事に対する遣り甲斐や工賃へと繋がっています。

また、地域公益活動の一環として、クリーン作戦を実施し利用者さんと事業所周辺のごみ拾いを行ないました。

市内の中学生の職場体験実習や専門学校など、施設実習の依頼も増えてきています。人と関わる機会が増えたことは、利用者さんにとっても職員にとっても嬉しく、笑顔も増え、充実した1年であったと感じています。

2. 実施事業

■ 就労継続支援事業B型	定員 25名	現員 21名
■ 生活介護事業	定員 15名	現員 17名
■ 短期入所事業	定員 2名/日	

3. 令和6年度の利用状況

■たのしいどう全体（定員40名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	37	37	37	79.2%
開所 日数	25	24	25	26	24	23	26	24	23	23	22	25	290	
延利用 回数	787	780	796	846	769	750	831	773	752	684	662	756	9,186	

平均実利用数 31.7名（小数点第2位以下切り上げ）

4月より、就労継続支援B型利用で2名の利用者さんが新しく加わり、生活介護利用者1名が2月より入院されています。

また、現員数が、定員数に満たしていないため、利用率は低くなっています。

■就労継続支援事業B型（定員25名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	70.1%
開所 日数	25	24	25	26	24	23	26	24	23	23	22	25	290	
延利用 回数	425	437	442	469	413	417	461	423	409	385	378	423	5,082	

平均実利用数 17.6名（小数点第2位以下切り上げ）

4月より、高等養護学校卒業の利用者1名、他事業所より利用1名の計2名の利用者さんが新しく加わり利用開始されています。

■生活介護事業（定員15名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	16	16	16	94.3%
開所 日数	25	24	25	26	24	23	26	24	23	23	22	25	290	
延利用 回数	362	343	354	377	356	333	370	350	343	299	284	333	4,104	

平均実利用数 14.2名（小数点第2位以下切り上げ）

1月中旬より1名、精神面を崩し入院した為、延利用回数減となっています。

■短期入所事業

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
延利用回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

今年度は短期入所事業の利用はありませんでした。

4. 取組みの概要

□事業所内での生産活動（取り組みの詳細は就労事業報告参照）

・パンと菓子の製造販売

～パン工房では、季節に合わせた期間限定商品のパンや焼き菓子ギフトの販売や、利用者さんの考案した新商品の販売にも力を入れ、一人ずつの作る楽しみを増やしています。また、新たな取引先も少しずつですが増えており、受注納品や冷凍発送など、売り上げへと繋がっています。また、イベントに合わせた特注パンの製造や、イベント販売商品の注文など、人との繋がりや縁により、春いろの商品を紹介できる機会も増えていきます。「日本農福連携協会」との繋がりにより、10月に東京で開催されたフェスの委託販売や、「北海道社会就労センター」の、札幌駅地下歩行空間の出店販売にも参加する機会を頂いております。

・利用者昼食、グループホーム食事製造委託作業

～利用者さんの食べたい物リクエストに応じながら、季節に応じた旬の食材を使用し、栄養バランスを考えたメニューを提供しています。月1回の選択メニューでは、選ぶ楽しみもあり利用者さん同士の会話でも話題が出て楽しみにされている様子でした。季節のイベントに合わせて、食堂の装飾も行ない雰囲気作りも利用者さんと一緒に行ない、食事の楽しみをより増やせるよう工夫しています。献立表をみて、通所する楽しみの一つとして、昼食が関われるよう、今後も食の充実、満足度を高められる様、心掛けていきたいと思っております。

・紙工芸品と受注作業

～しめ飾り製造に重点を置いた紙工芸品作りでは、季節に応じた製品作りを増やし、利用者さんの技術向上と作る楽しみを増やしています。一つずつ丁寧に製品を作り上げることで、様々な人の目に触れ、売上に繋がる事で、利用者さんのモチベーションも上がりました。受注業務では、JAL 航空機のマドラーの袋詰め作業や4つの地域の公園清掃、また、新たにポスティング作業にも取り組みました。外に出ての取り組みは、気候によって大変な作業でもありましたが、皆さんやりがいをもって取り組みました。ウエス製造も、定期的に注文を頂ける顧客も増え、売上へと繋がっています。一人ひとりが担える様、

工程を細分化し、携わる事でやりがいや達成感に結び付く事が出来ています。

□やりがいや楽しさを創出する活動

・作業活動のほか、季節に応じた制作、映画鑑賞等、様々な余暇支援を行なっています。週末の午後には、活動の時間を取り入れ、体と心の休息や仲間との時間を楽しんで頂けるような取り組みを大切に進めています。また、作品は館内に飾る事で、見て楽しめる様にもしました。

■権利擁護

権利擁護・苦情解決委員会の活動として、年度初めに北海道知的障がい福祉協会にて行なわれている「人権侵害ゼロの誓い」の署名を実施しています。また、今年度は「令和6年度障害者虐待防止・権利擁護指導者養成研修」の動画視聴の受講を実施し、その後、習熟度確認テストを行なっています。

たのしいどうでは、多機能で事業を実施しており、障がい特性や年齢も様々な方がいる中、利用者さん同士の行き違い等による、トラブルや日々の細かな対応が求められました。その際は、スタッフ朝会、会議時のケース報告で日々話し合う事を行ないました。スタッフ間で、支援上の課題を共有し、情報共有しながら、利用者さんへの声掛けや対応をしています。

■苦情解決

今年度の苦情・要望受付は1件でした。利用者さん本人からの「苦情受付カード」のポストへの投函でした。内容については、日々の不安や将来の希望についてでしたので、分かりやすく説明し、対応をしています。相談受付箱に投函されない方もいる為、利用者さんが抱える不安や悩みを日々聞き取り、話しをする機会を設け、利用者さん一人ずつが過ごしやすく、通いやすい環境を整え、職員がすぐに相談、解決へと応じられる支援が出来ればと考えています。

■感染症対策

食品の製造販売を行なっていることから、利用者及び職員の全員が毎月、検便検査を実施しています。体調不良者は、食品製造に入らない（持ち込まない）を徹底し、利用者さんや職員の体調管理と共に衛生面の確保に変わらず配慮しました。毎朝の検温、館内の消毒等、日中の検温も定期的に時間を決めて対応を行ない予防に努めました。通所後の健康状況の変化の把握、発熱時の通所判断の検討や早退などを、ご家庭にも協力を頂きながら進めています。

■災害対応・事故対策

今年度の1回目は、地震発生後に火災を想定した通報、避難までの訓練を全員で行なっています。避難場所の駐車場で、利用者さんと職員の消火訓練も実施することが出来ています。2回目の訓練は、火災を想定した自主訓練を利用者さんと職員のみで実施しています。地震や火災発生時の注意点や、避難経路、避難口の判断、優先順位などを利用者さんへお話ししています。動きを想定、イメージすることの大切さを改めて再認識し、避難の対応について、学ぶ機会となりました。

■年間行事

年度内に実施した法人事業所合同の行事に関しては法人の事業報告参照。

■諸会議

- ・法人全体会議・・定例で月1回実施。今年度は対面での会議を実施。
- ・個別支援計画策定会議・・個別支援計画作成時に1ケースごとに実施。計画原案をもとに現場長や事業班の職員が支援内容等について検討しました。利用者さんにわかりやすく提示できるようにスタッフで議論しています。
- ・ケース会議・・その日にあったケースを各担当から報告し、必要に応じて事例検討を行ない、支援方針を立案し、支援の統一を行なっています。

■健康管理

- ・今年度は、7月に健康診断を実施しています。

■工賃支払い状況

☐就労継続支援事業B型

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	21	21	21	21	21	21
総支給額	372,700	361,000	363,400	420,400	382,600	354,900
平均額	17,748	17,190	17,305	20,019	18,219	16,900

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	21	21	21	20	20	20	249
総支給額	404,500	375,600	698,800	404,800	346,000	1,020,900	5,505,600
平均額	19,262	17,886	33,276	20,240	17,300	51,045	26,068

□生活介護事業

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	17	17	16	16	16	16
総支給額	160,200	152,400	140,500	171,100	162,900	146,900
平均額	9,424	8,965	8,781	10,694	10,181	9,181

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	17	17	17	17	17	17	192
総支給額	153,400	157,600	180,100	160,000	127,000	183,100	1,895,200
平均額	9,024	9,271	10,594	9,412	7,471	10,771	11,122

□事業所全体の平均工賃額 ￥19,455／月 （38名）

5. 課題

今年度は、新しく取引を始めたところが増えた半面、急に作業が止まってしまふなど、予想できないことが続けてありました。材料費や資材の高騰、水道光熱費の値上げなど、支出がより増えたことで、工賃の確保が難しく、課題となった1年となりました。今後も、社会情勢に応じて、商品の値段見直し、下請業務の価格交渉等、より工賃に繋がるような取り組みを行なう必要があると感じています。小さな結果も積み重ねにより、成果は出てきますので、今後も何事も継続、維持していきたいと考えています。利用者さんが、自分の役割に自信を持ち、安心して通える居場所作りも大切に、楽しみや達成感が感じられるような支援を今後も強化していきたいと考えています。

就労事業の報告

■事業班名：レインボー&クリアー

1. 取組みの概要

クイリング製法で作成したしめ飾り、季節やイベントに合わせた製品作製とウェス製造へと取組む「レインボー班」、企業や仲間の施設から請負う様々な下請作業、地域の公園清掃委託へと取組む「クリアー班」の二つに分かれて活動を行ないました。

「レインボー班」のしめ飾り作りでは、パーツのデザインを皆で意見を出し合いながら変更し、見て楽しめる製品作りを目指しています。

ウェス製造も、継続的に注文を頂く顧客も出来た事や、顧客から新規のお客様を紹介してもらえた事で、売上に繋げる事も出来ました。



ウェス作業



クイリング製造



「クリアー班」では、JAL 航空機で使用するマドラーの袋入れの委託を請け、個々の特性に合った作業工程に取り組み、進める事が出来ました。

毎年委託を受けている公園清掃では、空知の風のロゴ入りジャンパーの他に空知の風のロゴが入ったポロシャツを新調し、4つの地域の公園清掃に取り組みました。また、新たに南空企画様よりチラシ折り、ポスティング作業の下請け作業にも取り組みました。市内の一部地域を分担しながら取り組む事が出来ました。



マドラー作業



ポスティングのチラシ折り



公園清掃

2. 成果

今年度は、新規の作業も含め多種多様な作業委託があり、様々な環境での作業や取り組みが自信や意欲に繋がったと感じています。クイリング製法での製品作りを得意とする方や、ウエスの裁断やごみ取りに安定して取り組む方、それぞれ得意な事や新たな挑戦をしたいという意欲が高まり、作業へ取り組む事が出来たと感じています。作業の工程に携わることが難しい利用者さんに対しては、安定を図りパズルやメモ帳作り、貼り絵や塗り絵等、一人ひとりが取り組める内容を提示し活動の一環として取り組みました。

3. 課題

企業や顧客の希望に沿って事業を進めることが大事だと感じています。しかし、下請作業では継続した作業や、覚えるまでに時間を要する方や、不安になる方もいて、利用者さんが取り組みやすい環境設備や支援が必要と感じています。心身の安定により、作業の取り組み姿勢や周りへの影響もある為、一人ひとり落ち着いて過ごせる様、個々に合った必要な支援を行なっていこうと思います。

■事業班名：ぱん工房春いろ

1. 取組みの概要

新型コロナの影響が緩和され、様々なイベントの再開や受注数、販売数も増えています。新たな取引先では、栗沢郵便局の無人販売、保育園、病院職員の取りまとめ注文、キッチンカー販売など、注文に応じて配達、冷凍発送などが増え、少しずつではありますが売り上げへと繋がっています。

また、地元の飲食店やお祭り、イベント販売するために使用用途に合った特注パンの製造の依頼も増えており、個別に対応を行なう事で信頼を得て継続した取引に繋がったと感じています。

新商品開発にも力を入れ、皆で意見を出し合いながら様々な試作を繰り返し進めています。焼き菓子も商品の形状を変更し、見栄えを変えて売上アップに繋がる様に工夫も行ないました。

また、夏のお中元やクリスマス等、期間限定ギフトや商品も利用者さんのご家庭に紹介させて頂き、ご協力頂いております。仲間の事業所からも、ロールケーキや菓子セット等、様々なイベントに合わせて受注が入り、売上にも繋がっています。パンやロールケーキも道内、道外の事業所から、定期的に注文を頂き、冷凍発送も継続しています。その他、繋がりのある施設やイベントでの販売会にも参加し売上に繋がっています。



札幌駅前地下歩行空間の販売



バレンタイン限定商品



ひなまつり
ミニロールケーキ

2. 成果

新商品の入れ替え等により、店舗のパンの売上が伸びています。春いろイチオシの、キタノカオリ食パンのリピーターも毎月、購入しに来てくれるお客様や、市外からも春いろの食パンを購入しに来られるお客様もいます。

また、新たに保育園や飲食店などからの注文依頼や、今までの顧客から新しく製造の依頼なども徐々に増えており、都度サンプルを作り要望に応じて希望に沿ったパンを納品し、積み重なる売上が春いろの支えともなっています。

焼き菓子製造も、「カリクロ」や「フィナンシェ」など人気の商品は生菌検査を実施し、賞味期限を1か月まで延長する事ができ、遠方での販売もお勧め出来るようになりました。

新しく商品化されることは、利用者さんの自信や楽しみにも繋がっています。

3. 課題

食品表示法やHACCPの取り組みも継続して日々進めています。異物混入やアレルギー対応の商品なども十分に配慮しながら取り組んでいます。1つの製品として、安全にお客様へ届けられているか等、適切なチェック体制作りが今後とても大切だと感じています。原材料や資材、原油の高騰により、値上げを行ないましたが商品の価格や規格の見直し等も継続して必要と感じています。また、新たな納品先の開拓も目指しながら、現在注文頂いている納品先を大切に、チームで協力しながら売上へと繋げていけるよう、努力していきたいと思います。

■事業班名：さんくつく

1. 取組みの概要

さんくつくでは、たのしいどうへ通所されている方の昼食製造作業と、グループホームの朝食製造・食材の検品作業を行なっています。昼食製造では、利用者さんに喜んで頂ける献立を取り入れながら、バランスや季節感も考慮し、

食への関心が高まることを目指しています。グループホームの朝食・夕食製造では、作った料理を食数に合わせて計量し、正確に分けるよう心掛けています。また、衛生管理に気を付けながら、安心して食べて頂けるよう、食品の管理や製造を皆で協力しながら、取り組んでいます。



作業風景



お楽しみ選択メニュー（パスタ）

2. 成果

昼食製造では、利用者さんのリクエストに応じたメニューや、手作りデザートを献立に取り入れる事で、作る楽しみも意識して取り組んでいます。毎月1回のお楽しみメニューでは、利用者さんのリクエストされたメニューや、選択メニューを取り入れ、楽しみながら食事が出来るように心掛けています。食材購入時にも、野菜や主菜など既製品を購入せず、一つずつ手作りで、利用者さんの作業スキルの向上や様々な作業経験を重ねられる機会にもなっています。作業の中では、利用者さんのペアリングに考慮し、作業場所を2か所に活用することで、働きやすい環境の配慮や時間の工夫等も行なっています。また、HACCPの考え方を取り入れた衛生管理の記録は引き続き行ない、より改善へと繋がる様な取り組みも行なえています。

3. 課題

衛生管理の面で、利用者さんへの声掛けや確認は、今後も強化していく必要があると感じています。献立によって利用者さんの1日の流れも変化してくるため、作業が確保出来るような仕込み量や作業工程を考え、組み合わせの工夫や支援が大切だと考えています。利用者さんの調理技術が高まり、色々な経験が重ねていける様、今後も取り組んでいきたいと思ひます。

■データ（たのしいどう）

1. 製造販売事業	売上 1 8 2 3 万円	工賃還元額	6 9 6 万円
2. 下請加工事業	売上 4 9 万円	工賃還元額	4 4 万円

令和6年度 きっちんどう 事業報告

1. 令和6年度事業の総括

令和6年度は、お弁当製造、配達業務と店舗の運営を廃止し、法人内の食事提供や肉巻きおにぎり等の冷凍食品製造に力を入れています。また、令和5年度末で生活介護事業を廃止し、令和6年度は、就労継続支援事業B型20名定員で事業を開始しています。4月より、活動内容の見直しにより、きっちんどう館内の一部を整備し、7月まで改装工事を行なっております。利用者さんが過ごしやすい食堂や休憩スペースの確保やトイレ、玄関等の修繕を行ない、綺麗で明るい空間へと様変わりしています。

就労事業の下請事業では、仲間の施設からの紹介で、タコ入りのコロッケを製造し、冷凍で発送する業務を新たに頂いています。製造販売事業では、今まで弁当製造に追われ、既製品の食材を使用することが多くありましたが、利用者さんの昼食やグループホームの夕食のおかずを出来るだけ手作りで行なう等、調理技術の向上や作る楽しさを増やしています。

利用者さんが楽しみにしている行事では、全事業所の利用者さんが集まって、事業開始式や忘年会も実施出来ています。久しぶりに顔を合わせることで、話も弾み、たくさんの笑顔を見ることが出来ています。宿泊旅行や日帰り旅行、外出イベント等も行ない、余暇も楽しむ機会が増え、実りある一年となりました。

2. 実施事業

■ 就労継続支援事業B型 定員20名 現員18名

3. 令和6年度の利用状況

■ 就労継続支援事業B型単独型（定員20名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	18	18	18	18	17	17	17	17	17	17	17	18	18	69.0%
開所日数	25	24	25	26	24	23	26	24	23	23	22	25	290	
延利用回数	356	364	347	372	323	318	354	320	322	297	290	338	4,001	

平均実利用数 13.8名（小数点第2位以下切り上げ）

4月より、高等養護卒業の新しい利用者1名が加わり、7月中旬より、わくわくどうへ1名異動しています。

4. 取り組みの概要

□事業所内の生産活動

令和5年度までは、お弁当事業中心に取り組んでいましたが、食材や配達コストの高騰もあり、事業再編を行ない、令和6年度からは、法人内の昼食製造やグループホームの夕食製造を主とした活動へと転換しています。給食製造に必要な整備、器具の購入を、随時進めています。

■権利擁護

権利擁護・苦情解決委員会の活動としては、年度初めに北海道知的障がい福祉協会にて行なわれている「人権侵害ゼロの誓い」の署名を実施。併せて日本知的障害者福祉協会の倫理綱領をスタッフで読み合わせも実施。また、事業所内でガイドブックを使用しながらパート職員を含め、小単位で権利擁護について、周知を行ない情報の共有を進めました。特に新しい職員に対しては知的に障がいのある方を支援するための行動規範や、特性による個別な関わり方については個別対応して伝えています。

■苦情解決

苦情受付については、令和6年度0件となっています。

親御さんからの相談や要望などは、受け付けでありました。また、日々の利用者同士のトラブルや対人関係の悩みなどは、利用者からの相談を受け付け、その場で都度対応しています。利用者からの苦情に繋がる相談段階の話しにしっかり耳を傾け、今後も支援を行なっていきます。

■感染症対策

食品の製造販売を行なっていることから利用者及び職員の全員が毎月、検便検査を実施しています。毎月行っている検査から食中毒を起因するような保菌者はいませんでした。

新型コロナウイルスでは、医師の診断でなくても、抗原検査の結果で判断可能となり、法人で用意された抗原検査キットは効果を発揮しました。発熱後の利用再開、勤務の再開において、抗原検査を実施できたことにより、陰性を確認した上で、感染予防を実施し、事業所でのクラスターなどを引き起こすことなく過ごすことができています。ご家庭でも体調管理にご協力いただき、体調不良の際には、通所前にご相談の連絡を頂いたり、早めの受け入

れをして頂いたりなどし、新型コロナだけでなく、インフルエンザなどの感染症が事業所で蔓延することはありませんでした。

■災害対応・事故対策

避難訓練を2回実施しました。改装工事に伴い、館内の配置や避難経路も変更となったため、新たに届け出を行ない、2回の訓練を実施しています。

1回目は、消防署にも立ち合いして頂き、直接避難時の対応、火災だけではなく、地震時の避難の注意点等を講話頂いています。調理業務を主に活動しているため、火の取り扱いや掃除の大切さ等も訓練と合わせて学ぶ機会としています。

■年間行事

年度内に実施した法人事業所合同の行事に関しては法人の事業報告参照。

■諸会議

- ・法人全体会議・・・定例で月1回実施。会議はオンライン会議にて実施。
- ・個別支援計画策定会議・・・利用者の個別支援計画作成時に1ケースごとに実施。個別支援計画原案をもとに支援計画の支援内容等について検討しました。利用者さんにわかり易く提示できるようにスタッフで議論し、作成に努めています。
- ・ケース会議・・・利用者について担当より報告し、事例検討を実施。支援方針を立案、共有しています。

■健康管理

今年度は、7月に健康診断を実施しています。40歳以上の方で、市の検診を受ける方も出てきています。

平均年齢が40歳に近付いてきていることもあり、健診結果による必要な医療受診は勿論、要観察についてもご家庭にも協力を得ながら、日頃からの生活習慣や食事の摂取量についても気を配るようにしています。

■工賃支払い状況

□就労継続支援事業B型

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	18	18	18	18	18	17
総支給額	423,600	403,800	406,300	435,600	422,600	363,500
平均額	23,533	22,433	22,572	24,200	23,478	21,382

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	17	17	17	17	17	18	210
総支給額	384,900	431,300	1,037,600	395,200	338,200	757,200	5,799,800
平均額	22,641	25,371	61,035	23,247	19,894	42,067	35,023

□事業所全体の平均工賃月額 円 35,023/月 (平均13.8名)

5. 課題

物価の高騰、人材不足の中での配達は、工賃向上への影響を与えることから、弁当製造を令和5年度で廃止しましたが、外部から得る収入がないことは、売上にも直結しています。法人内の利用者さんへの食事提供を主に生産活動していますが、食材の高騰が止まらず、食材選びやメニューの工夫等も行なっておりますが、材料費のコストが嵩み、利益が少なくなっているのが現状です。生産活動を実施継続していく中で、社会状況の変化に合わせていくことはとても大変なことです。しかも、障がいのある方たちを支援しながらの生産活動となれば尚のことです。利用者さんの工賃を確保するために必要な売上を目指すことと障がいのある方たちへの支援のバランスを取ることは我々の大きな課題です。

就労事業の報告

■事業班名 てのひら

1. 取組みの概要

製造販売事業班では、法人内の利用者昼食提供とグループホーム夕食提供を主に、バランスの良い手作り料理や、調理の楽しみを増やせるような取り組みを心掛けながら進めています。昨年度までは、お弁当製造に追われる日々でしたが、今年度は利用者一人ずつが身に付けた調理技術を活かせるような機会を増やしています。



昼食製造と盛り付けの様子

冷凍食品製造として、全国の仲間の施設に購入して頂いてきた「豚の肉巻きおにぎり」の新たな仲間入りとして、鶏ひき肉と軟骨を使った「鳥神飯」という、新商品のおにぎりを開発しています。年末には、そらかぜギフトとして皆さんにもご紹介させて頂き、お歳暮やイベント等にも少しずつ利用して頂く機会もあり、新たなきっちんどうのオリジナル商品を召し上がって頂いています。



新商品！「鳥神飯」



「鳥神飯」製造様子



2. 成果

法人内の食事提供を行なうことで、安定した製造量を確保でき、一人ずつが担う調理技術の幅も広がっています。新たな冷凍食品の新メニュー開発でも、味や形など試行錯誤を繰り返しながら、製造の楽しみ、新たな取り組みへの挑戦が行なえることは、一人ずつの遣り甲斐や成果にも繋がっています。4月当初は、製造量の見直しや作業環境の変化で、戸惑う利用者さんもいましたが、徐々に自分の役割を確立していくことで、安心と安定感にも繋がっています。

3. 課題

生活介護事業を3月末で廃止し、4月よりB型事業所として食品製造を主として活動することで、1日を通して製造作業に取り組むことが難しい利用者さんの作業や、活動を見出すことに苦戦しています。物価の高騰に歯止めがきかず、10月よりお米の価格も高騰したことで、止むを得ず冷凍食品のおにぎりの価格を値上げする判断をとっています。しかし、食事提供の価格は、日々の利用者さんの負担にも直結するため、材料費が嵩む一方で、利益が少なくなる状態が続いています。収入に繋がる新たな冷凍商品の開発を今後も進め、工賃維持が出来るような方法を見出していくことが課題となります。



そらかぜギフト



岩見沢農業高等学校と一緒に取り組んで
「う米コメプロジェクト」のおにぎり製造様子



■ 事業班名 まごころ

1. 取組みの概要

下請加工事業班として、自動販売機の管理の実施、農福連携事業として、昨年度に引き続き、J A岩見沢様の倉庫にて、ひまわり出荷用の箱折作業に取り組んでいます。今年度は新たに、日高町商工会よりの依頼で、日高町でとれた「じゃがいも、昆布、タコ」を入れたコロッケを冷凍食品として製造、納品して欲しいとの依頼を受け、10月～12月の期間限定で取り組んでいます。



2. 成果

今年度も5月～9月の集荷時期の限定作業となりましたが、農福連携事業として、7名の利用者さんが戸外に出て、ひまわり箱折り作業に参加しています。新しい仕事として、タコロッケ製造の下請け作業も頂き、20グラムの小さなコロッケを一つずつ丁寧に丸めて製造しています。全部で、5483個の完成になり、納品させて頂いています。地道な作業ではありましたが、完成していく工程を目にすることで、利用者さんの楽しみにもなり、新たな作業に取り組むことは、利用者さんの意欲にも繋がったと感じています。

3. 課題

下請け作業は、季節や時期の限定作業が多く、年間通しての予定が立てづらく、継続や収入見込みも難しいのが現状として課題を感じます。様々な経験をさせて頂けることは、利用者さんにとっても良き機会ともなり、モチベーション向上にも繋がるため、機会があれば来年度も色々な事へ挑戦し、収入にも繋げていけたらと感じています。

■ データ

- | | | | |
|-----------|----------|-------|---------|
| 1. 製造販売事業 | 売上1320万円 | 工賃還元額 | : 552万円 |
| 2. 下請加工事業 | 売上30万円 | 工賃還元額 | : 28万円 |

令和6年度 あかるいどう 事業報告

1. 令和6年度事業の総括

令和6年度あかるいどうでは様々なことに挑戦しています。年間を通して、北海道内の展覧会のみならず、九州の久原市で開催された展覧会への応募など、数多くの展覧会へ出品しました。札幌市内のギャラリーにおいては、あかるいどう単独での展覧会も開催することが出来ました。また、写真・動画投稿サイトにあかるいどうのアカウントを開設して、利用者さんが制作した多くの芸術作品を世界に発信したり、事業所の窓から外へ向けてアートを展示するなど、利用者さんの芸術作品とアート活動を知ってもらう活動に力を入れてきたことで、社会的認知度が徐々に上がってきているのを感じています。

利用状況では、4月と7月に男性1名ずつ2名の新規利用がありましたが、年度内に2名の退所者があり、現員は21名となっています。また、不慮の交通事故が発生して、1名の利用者さんが長期の入院を余儀なくされた事案やコロナウイルスのまん延もあり、年間の利用状況に影響がありました。

週末に楽しんでいる余暇活動も、様々な道具や玩具を使いながら体を動かすなどして健康維持に取り組み、利用者の皆さんが通う楽しみの一つとなりました。また、職員が研修を受けて学んだことを利用者支援に活かす取り組みも進め、活動や生活するうえで必要な選択カードやスケジュール表など、支援に必要なツールが事業内に増えました。健康維持を目的とした楽しみや個別の支援にも目を向けた1年間でした。

2. 実施事業

令和6年4月～

生活介護事業

定員20名

現員21名

3. 令和6年度の利用状況

■生活介護事業所単独型（4月～定員20名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	19	21	21	22	21	21	22	22	21	21	21	21	21	78.2%
開所日数	25	24	25	26	24	23	26	24	23	23	22	25	290	
延利用回数	389	382	377	393	381	372	401	379	382	334	353	390	4,533	

平均実利用数 15.7名（小数点第2位以下切り上げ）

4. 取組みの概要

□事業所内での活動

・にこにこ班

年間を通じて、絵画などの創作活動に力を入れて取り組みました。北海道のみならず、全国各地の展覧会を調べて、合計7つの展覧会に多くの芸術作品を応募・出展することができました。

事業所の中では、正面玄関フロアと道路に面した大きな窓をギャラリーと見立てて、事業所の中から外へ向けて作品を展示したことや Instagram（インスタグラム）の開設など、利用者さんが創り上げた芸術作品を社会や世界へ向けて発信していくことに力を注ぎました。



正面玄関前

ウィンドウズギャラリー

・さんさん班

利用者さんの特性に応じた活動の創出と社会参加の一環として、企業の下請け作業に取り組みました。今年度は、リストバンド作りやプリント圧着作業など初めての内容もありましたが、先方よりレクチャーを受けて、希望される利用者さんと取り組みました。年度途中には市内のチラシ配りの仕事を紹介していただいて取り組み、健康増進を図りました。また、法人内の行事ごとの賞状制作や記念品制作、その他、展覧会の絵画レンタルは、下請けとしてさんさん班で請け負いました。

□楽しみを中心とした活動や運動

・活動支援

週末の木曜日と金曜日の午後からの時間を使って、余暇活動を実施しました。映画鑑賞や玩具を使ったミニゲームで楽しんだり、器具を使って足を動かす運動やラジオ体操、散歩などを行なって、楽しみを感じてもらいながら機能維持や体力維持を目的とした活動も進めました。

■権利擁護について

権利擁護、苦情解決委員会の活動として、年度初めに北海道知的障がい福祉協会にて行なわれている「権利侵害ゼロの誓い」の署名を実施。日本知的障害者福祉協会の倫理綱領をスタッフで読み合わせを実施し意識の向上を図りました。また、権利擁護の研修を受けた職員は、次月の職員会議でフィードバック研修を実施し、権利擁護の意識を高める取り組みを続けています。

職員会議では、「虐待防止」「身体拘束」「意思決定」の三項目について取り組みや支援を毎月報告し、不適切な支援が無かったか、職員全体で検証を行なっています。

■苦情解決委員会

令和6年度、受付件数は2件となっています。相談受付箱による提出はありませんでしたが、口頭にて、相談を都度受け付けています。内容としては、他の利用者さんへの声掛けを自分にされているように感じて嫌だったとの相談と食事の件について職員が発した言葉に疑問を感じたとのことでした。双方に確認を行なって、利用者さんへは業務や支援に必要な発言であったことを伝えて、職員に対しては誤解を受けるような言葉とならないように指導しています。訴えができない方についても、都度、話をする時間を作り作業や生活している中で感じる疑問や悩み等をくみ取れるよう対応しています。

■感染症対策

事業所内では、うがい・手洗いの徹底や定時の検温等、感染予防の対策を継続して取り組んでいます。5月と1月にコロナウイルスがまん延しました。やはり大型の連休となると様々な場所で感染症が流行し、数名の利用者さんがコロナに感染しました。更に、感染していなくても対策のためにしばらく事業所を休まれる方も多かったです。マスクの着用やうがい・手洗いなど、自ら感染予防を徹底することが難しい方も多く、予防対策の難しさを痛感しました。

■災害対応・事故

避難訓練を2回実施しています。春は火災想定 of 訓練、秋には地震想定 of 避難訓練とし、消防署の立会いの下実施しました。非常ベルに驚いてしまい、恐怖で動けなくなる利用者さんもありましたが、職員で役割を分担し、安全に避難訓練を終えることが出来ています。

■年間行事

年度内に実施した法人事業所合同の行事に関しては法人事業報告書参照。
その他あかるいどうで参加した展覧会等について

- ・「くばらだんだんアート展」応募期間 7/1～10/1 開催期間 3/25～3/30
- ・「みんなあ～と」開催期間 9/12～9/14
- ・「いわみざわハート&アート展」開催期間 10/3～10/7
- ・「北海道障がい者のアート展」開催期間 11/21～11/24
- ・「奥尻町福祉アート展」開催期間 12/3～12/9
- ・「ARTAKARUIDOU（アートアカリドウ）展」開催期間 12/17～1/10
- ・「irodoriーイロドリー展」開催期間 1/20～2/25



「ARTAKARUIDOU 展」の様子

■諸会議

- ・法人全体会議・・・定例で月1回実施。市民会館等を利用し、職員全員参加での会議を再開しています。
- ・個別支援計画策定会議・・・個別支援計画作成時に1ケースごとに実施。計画原案をもとに支援内容等について検討しました。利用者さんにわかり易く提示できるようにスタッフで議論しています。
- ・ケース会議・・・その日にあったケースを各担当から報告し、必要に応じて事例検討を行ない、支援方針を立案しています。

■健康管理

今年度は、7月に健康診断を実施しています。年々と、年齢を重ねていき、中には体調不良を伝えられない方もいるため、定期的な健康診断の結果が重要となり、ご家庭にも協力をいただきながら一人一人の体調面に配慮しています。また、コロナ感染のほかに、インフルエンザや、ウイルス性胃腸炎が流行したため、館内の消毒や日々の検温、体調管理を徹底しました。

活動報告

1. 取組みの概要

■事業班名 にこにこ

アート制作に力を入れたこの1年間は、「福祉とアーツ北海道」事務局からのオファーである、あかるいどう単独での展覧会「ARTAKARUDOU (アートアカリドウ) 展」を札幌市中原電気ギャラリーで開催したことが一つの集大成となりました。多くの作家さん(利用者さん)の協力を得て、絵画45点、立体作品としてランプシェード1点と車の模型クラフト約30点を展示し、札幌市やその他の地域の一般市民の皆さんに、あかるいどうで創作された芸術作品を発信する、素晴らしい機会になりました。観覧を希望された利用者さんと一緒にギャラリーへ出かけたことも良い思い出の一つです。

年度の初めから、正面玄関フロアをギャラリーとして活用しています。アート作品を壁面いっぱい飾り、絵画の大きさによって値札を付けて販売促進にも取り組みました。また、国道に面した大きな窓はウィンドウズギャラリーと名付けて、テーマごとに窓いっぱいの大きな作品を外へ向けて展示しました。立ち止まって見入っている市民の方もおられ、制作者のモチベーション向上の一助となりました。

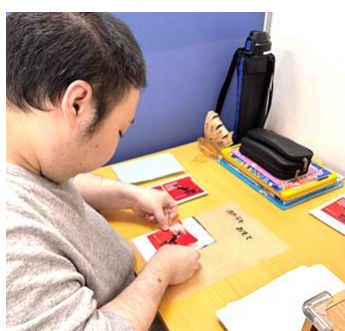
あかるいどうの事業であるアート活動は設立から12年目を迎え、これまで長くアート制作に取り組んできた利用者さんの作家としての芸術性が高まりを見せ、胸を打つ素晴らしい作品が多数生まれました。



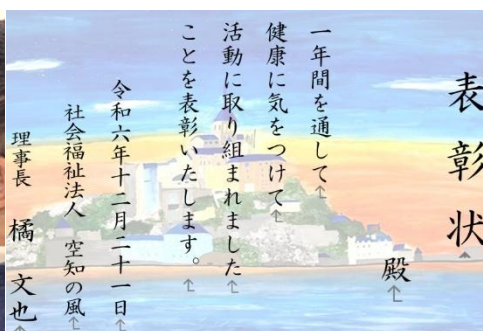
■事業班名 さんさん

主に企業からの下請けとして、シール貼りやリストバンド作り、プリント圧着、チラシ配布などの作業に取り組みました。作業ごとに必要な治具を作り、だれでも参加が可能な環境作りを心がけました。参加を希望する利用者さんが、取り組みの内容によって健康の増進が図られる、または、モチベーションや心の安定が保たれることを目標に、利用者さんの選択肢を増やす活動としました。

利用者さんの皆勤賞や職員の永年勤続などの賞状作りに取り組みました。皆勤賞には絵画を背景に、永年勤続にはその職務に即したイラストを利用者さんが描いて賞状の背景に入れ込むことで、受け取る方にも喜んでもらうことが出来ました。



下請け作業の様子



皆勤賞の賞状

■余暇活動支援

週末の木曜日と金曜日の午後にはレク活動を実施しました。5～9月までの暖かい日には岩見沢神社や近隣の公園へ散歩に出かけています。多目的室では様々な遊びをしましたが、中でもボードゲームや体を動かして競う玩具は大変人気があり、順番待ちで楽しんでいました。また、段ボール版のモルックではチーム分けをして楽しく点数を競い合いました。年度末には、運動器具のステッパーも頂いたので、希望する利用者さんがいつでも使うことが出来るように長椅子の下に設置したところ、毎日利用者さんの誰かが気軽に運動しています。



2. 成果

今年度は、多くの展覧会に出展を果たしました。特に「北海道障がい者のアート展」に出展した作品の中から、あかるいどう作家さんが制作した作品「お父さんのトヨタコロナ」が選ばれて「奥尻町福祉のアート展」へ展示されたことは、本当に喜ばしいことだと感じます。奥尻町へはいけませんでしたでしたが、その他の展示会場へは希望者や制作者が足を運び、自分の作品を誇らしげに観ていたのが印象的でした。また、ご縁があって、岩見沢市内の「福祉村」のアート展へも見学しました。



「北海道障がい者のアート展」



「ハート&アート展」



「ARTAKARUDOU 展」



「irodori-イロドリ-展」

アートカレンダー２０２５の制作に取り組みました。創作活動に参加しているほぼ全員の利用者さんの作品を掲載することができ、芸術性の高いカレンダーが完成しています。親御さんや関係者の皆さんからも賛美の声を頂きました。お世話になった方やお世話になった施設、役員の皆さんへ、法人からの挨拶としてお渡ししています。



アートカレンダー２０２５（一部抜粋）

３．課題

言葉や意思の表出が難しい利用者さんの気持ちを汲み取るために様々なツールを増やして用意しましたが、まだまだ必要な方が多く、ツールが足りないと感じています。意思決定の支援を充実させることが、利用者さんの権利を護るために重要であるということを常に意識して取り組んでいきたいと考えます。また、重度高齢化に向け、体力維持の為の活動や、余暇支援の充実に向けて一人ひとりの利用者さんの生活や、人生が豊かになるような支援を目指していけたらと思います。

アート作品を一人でも多くの方に知っていただく為、事業所や展示会など、利用者さんのもつ感性豊かなアートの魅力を広げられる様、啓発活動により力を入れていく事が大切だと感じています。そして、その豊かな魅力を世界に広げ、利用者さんの人生にとって有益な活動としていくには、作品と作者を著作権によって護ることが必要になります。今後、あかるいどうとして法律を整備する取り組みを進めていきたいと考えています。

令和6年度 わくわくどう 事業報告

1. 令和6年度事業の総括

利用者さんの工賃向上を目指しスタートしました。

令和5年4月末から外部就労として始めた「介護老人保健施設ゆあみーる」での作業は、使用後の食器や調理器具等の洗浄作業を主に行なっていますが、利用者さんの能力が向上し、新しい工程の作業にも挑戦しています。作業工程が増える事によって、工賃向上に繋げる事が出来ています。

そらかぜ食堂は5年間の随意契約の最終年となっています。食堂運営については原材料や建物使用料・水道光熱費の高騰による影響への対策と対応、安定した集客数と期間限定メニュー等を開発し、収入確保の対策を行なっています。

印刷プリント作業では、注文数が減少する冬場の作業の確保に向け営業等を行ない、収入を確保しています。

生産活動収入としては様々な影響がありましたが、全体を通して取り組みの成果や働く経験を得る機会にもなり、平均工賃も4万円を超え利用者さんそれぞれがやりがい、達成感を得られた年になっていれば良いと思います。

2. 実施事業

■就労継続支援事業B型 定員20名 現員16名

3. 令和6年度の利用状況

■就労継続支援事業B型（定員20名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	69.3%
開所 日数	25	24	25	26	26	23	26	24	23	23	22	25	292	
延利用 回数	347	344	334	359	335	331	362	340	342	314	306	336	4,050	

平均実利用数 13.9名（小数点第2位以下切り上げ）

4. 取組みの概要

□事業所内での生産活動

・「そらかぜ食堂」の運営

空知総合振興局、道職員の皆様を中心に食事の提供を行なっています。少しずつ一般のお客様も来店される傾向が見られ、以前よりも市内へ周知度が増してきていると実感しています。

コロナ過も明け、集客数が伸びましたが、米等の原材料等の高騰もあり提供価格の見直しを進め、振興局総務課と協議を行ない、米を使用する商品の値上げを実施しています。

毎月の「期間限定メニュー」の新商品開発や試作を重ね1人でも沢山の方に利用していただけるように検討を重ねています。

利用者さんの作業面では調理技術や接客技術の向上が見られ、それぞれ役割を担いながら協力して取り組みを進めています。

□施設外就労支援

・「介護老人保健施設ゆあみーる」での施設外就労作業

老人介護施設で働くにあたり、感染症等の検査や、利用者さん一人ひとりが体調管理に気を付けながら作業に参加されています。決められた時間内に作業終了させる素早さ正確性が求められ、大変な作業ですが、担う役割も徐々に増えていく事で工賃も上がり、やりがいや達成感を得られているのではないかと感じています。

□自主事業・印刷プリント作業

・昨年度よりも多くの御注文を頂き、プリントの位置合わせやプレス作業など、難しかった工程も向上し、生産力を高めることが出来、売上に結びついています。Tシャツやポロシャツが主力商品であるため、冬場の売上減少が課題ですが、夏場の内に冬使用出来るパーカー等の商品をPRする事で、少しずつ注文に繋げる事が出来ています。

■権利擁護

権利擁護・苦情解決委員会の活動として、北海道知的障がい福祉協会で実施されている「人権侵害ゼロの誓い」に職員全員が署名しています。併せて日本知的障害者福祉協会の倫理綱領を確認しています。

そらかぜ食堂7名、ゆあみーる作業5名、館内作業4名と、分かれている事もあり、それぞれの現場で少人数での対応が行なえています。会議での報告などから話合い支援中の声掛け、働きかけなど改めて権利擁護の視点から一つひとつの支援について考え、特性による個別な関わり方、課題を共有するなど情報共有の機会にもなっています。

■苦情解決

今年度の苦情受付は0件でした。

日々、利用者さんの悩みや不安、相談など聞き取り、話をする機会を設けています。特に利用者さん本人の作業へのスキルアップや、他利用者さんとの関係性についての相談が、日常での会話から聞こえてくる事もある為、その都度対応と見守りを行なっています。訴えることが苦手な利用者さんもあり、日々の表情や行動の変化に配慮し、親御さんやグループホームのスタッフとも情報交換を行ないながら、利用者さん自身ご家族が安心して利用できるための環境作りを今後も行ないたいと考えています。

■感染症対策

食堂作業、ゆあみーる作業に従事する利用者及び職員の全員が毎月、検便検査を実施し、更に体調管理と衛生面に配慮しています。加えて、新型コロナウイルスの対策も継続しています。毎朝の検温、館内の消毒等も定期的に時間を決めて対応を行ない予防に努めています。ご家族とも連絡を取り合い、健康状態の把握や交通機関の利用時間変更や送迎対応なども協力を得て進めています。

■災害対応・事故対策

避難訓練を2回実施しています。地震や火災を想定し第一発見時からの行動や通報マニュアルの確認、避難誘導など、実戦想定で基礎的な訓練を実施しています。また実際に避難はしごを使用する想定で2階窓枠への設置方法など避難はしごの使い方も確認しています。様々な想定訓練や防災対策と同時に、作業活動先での避難方法なども職員間で共有する機会としています。

■年間行事

年度内に実施した法人事業所合同の行事に関しては法人の事業報告参照。

■諸会議

- ・法人全体会議・・・定例で月1回実施しています。
- ・個別支援計画策定会議・・・個別支援計画作成時に1ケースごとに実施しています。計画原案をもとに支援内容等について検討し、利用者さんにわかり易く提示できるようにスタッフで議論しています。
- ・ケース会議・・・その日にあったケースを各担当から報告し、必要に応じて事例検討を行ない、支援方針を立案しています。

■健康管理

今年度は、7月に健康診断を実施しています。

■工賃支払い状況

□就労継続支援事業B型

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	17	16	16	16	16	16
総支給額	497,300	462,500	455,100	476,500	497,600	441,800
平均額	29,253	28,906	28,444	29,781	31,100	27,613

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	16	16	16	16	16	16	193
総支給額	455,400	489,900	1,072,900	469,600	429,800	998,600	6,747,000
平均額	28,463	30,619	67,056	29,350	26,863	62,413	40,450

□事業所全体の平均工賃月額 ￥40,450/月（平均13.9名）

5. 課題

今年度も、様々な物価の高騰が続いており、食堂運営の収入や活動で影響を受けています。今後も段階的に価格を見直し、料金改定を行なうことが必要と感じています。

また施設外就労の利用者さんが、毎日、活動が出来る環境と、役割を担いながら工賃向上にも繋がり、やりがいを感じてもらえる場を維持する事が、重要と感じています。

印刷プリント事業の増産体制や、作業の確保も同様に進めながら、利用者さんが楽しみや達成感を感じてもらえるように支援していききたいと思います。

取り組む作業種によっては本人が辛い体験と感じてしまい、モチベーションが下がりがちになる事もあるかもしれません。息抜きや楽しみを提供していく事で、モチベーションを上げ、チャンスがあれば挑戦する、意欲の向上にも結び付けられるような関わりと支援をしていきたいと考えています。

就労事業の報告

■事業班名：そらかぜ食堂

1. 取組みの概要

そらかぜ食堂オープンから10年目を迎えました。食品衛生管理を日々時間毎に行ない、これまで食品事故も無く営業を継続してきました。しかし食材価格高騰は今もなお続いており、収益に課題がありますが、メニューの工夫と味付け彩り良く、今後も「安くて」「早くて」「美味しい」メニューを安全に衛生的に提供できる様に取り組ま行ないました。



イベントメニュー 台湾ラーメン



作業の様子

2. 成果

野菜摂取増加に向けた取り組みを空知総合振興局保健環境部と行なっています。生活習慣病の発症予防及び、食環境の整備を図るため、8月31日の「野菜の日」に合わせて数日間、サラダバーを設置しています。北海道ヘルスサポートレストラン推奨事業の普及開発事業の一環としても行なう事が出来ています。

今年度も中国による日本産水産物の禁輸措置により、北海道産のホタテ消費拡大の取り組みを率先して行なっています。食べて応援！北海道企画として、ホタテクラムチャウダーを限定で販売しています。

その他、季節に合わせたイベントメニューを販売し好評いただいています。令和6年度も、社会情勢や自然環境の取り組みを行なうことが出来ました。

3. 課題

メニュー価格を見直しましたが、食材の価格高騰は続いており、収益の増額にはあまり至っておりませんが、食品ロスの削減を継続し、利用者工賃向上に努めて行きたいと思ひます。

4. データ

利用者実人数：7名

営業開店日数：244日

年間来客数：20,539人

月平均来客数：1,711人

日平均来客数：84人

生産活動売上：1178万円

工賃還元額：546万円

令和6年度年間ランキング

1位～B定食 (34.6%)

2位～A定食 (31.9%)

3位～カツカレー (5.1%)

4位～カレー (3.5%)

5位～特盛ざるそば (2.9%)

6位～小鉢 (2.1%)

7位～鍋焼うどん (1.8%)

8位～げそ丼 (1.7%)

9位～100円サラダ (1.7%)

10位～ソースカツ丼 (1.6%)

(%はオーダーに占める割合)

■事業班名：施設外就労

1. 取組みの概要

老人保健施設ゆあみーるで、食器洗浄作業行なっています。施設の利用者さんが使用した食器を次回の食事時にも使用出来るようにするため、決められた時間内に洗い終え、乾燥庫へ収納し、乾燥完了後は所定の位置に片づけています。また盛付作業では、食する利用者さんによって、量が違うため、正確に計量しお椀の縁を汚さないよう綺麗に仕上げる事が出来ています。始めは失敗も多くありましたが、徐々に上達し利用者さん同士で作業を分担しながら効率良く進める事が出来ています。

2. 成果

素早さ、正確さを要する作業ですが、利用者さん一人ひとりが新たな作業に挑戦した事で、経験や自信、やりがいへと繋がっていたように思えます。

又、みそ汁の盛り付け作業や、盛り付けたみそ汁を決められた配膳カートに入れる、差し込み作業にも挑戦し、役割を増やす事が出来ています。

作業するにあたり、健康管理も重要な要素なため、生活習慣も改善し、健康的に過ごす事が出来ていました。

3. 課題

通年を通して、安定した活動を行なえる作業の確保が出来ています。

それに伴い、体力が必要な作業でもあるため、1週間やり遂げられるモチベーションの維持のため、息抜きや楽しみを提供していけたら良いと考えています。

4. データ

利用者実人数：5名

施設外就労収入：245万円 工賃還元額 ：245万円

■事業班名：自主事業班（印刷製造作業）

1. 取組みの概要

印刷製造事業も5年目となり、一人ひとりが担う役割も増えてきています。受注された様々なロゴのデザインを作成し、Tシャツやポロシャツ等の商品を販売しています。以前は難しかった、貼り付けるラバーの配置合わせも治具を使用して出来るようになり、プレス工程、包装なども効率良く進めることが出来るようになっていきます。

利用者さんが担う役割も増え、それぞれが、やりがいや達成感を感じながら取り組んでいます。

2. 成果

全国の繋がりのある事業所や市内の企業、団体様より沢山の御注文を頂き、商品の作製から出荷準備に至るまでの工程において、難しい作業にも挑戦し、利用者さんの新たなスキルの習得が出来ています。



治具を使用した位置合わせ



ラバーの圧着作業



受注作製した商品

3. 課題

夏から秋までイベントや行事が盛んな時期には注文が多くありますが、冬場の注文が減少する傾向にあります。作業確保と収入面からも、安定した製造体制を整えるために、今後も商品のPR活動が必要と考えています。

4. データ

生産活動売上：264万円 工賃還元額 ：130万円

令和6年度 歩〜夢 事業報告

1. 令和6年度事業の総括

令和6年度は、5名の新規利用者を迎え現員は41名となりました。以前より入居や宿泊体験のニーズが高まっており4月に男性5名の住居を開設しました。名称は、利用者さんや職員が夢（未来や将来）に向かって心や力が芽生える（育つ、高まっていく）ことを願って「ゆめばえ荘」になりました。また5月には利用者の一人暮らしにむけてサテライト型のグループホーム「ゆめばえサテライト」を開設しています。それに伴いこれまで利用者2名が住まいしていた「コーポハラダ」を閉所しています。

近年、入居や宿泊体験のニーズの高まりや経年劣化による住居の更新を視野に入れ、新しい物件の取得・開設への取り組みや、重度高齢化に対応した住居のための土地の取得など、未来へ向かって一步ずつ確実に歩みを進めています。

利用者さんの健康を維持し、安心安全な生活を守っていくことが地域生活支援において重要なことと認識していますが、今年度は、大腸や脳に病気が見つかり、また帰宅時に交通事故に遭い入院・手術などの治療を受けた方が数名おられました。市の特定検診等を利用しながら健康管理に留意してきましたが、病気や事故を未然に防ぐことや健康を守ることの難しさを痛感しました。

余暇支援では、誕生日会や買い物などの外出支援等、個別に対応した支援に加え、春と秋に恒例のBBQ、12月には忘年会を行っています。大勢の利用者に参加してもらい普段交流がない利用者同士も楽しそうに過ごしていました。また、10月には定山溪温泉に旅行に行きましたが、利用者さんの声でもう少し体を動かすような体験や色々なところを見に行きたいと話があったので少人数での旅行など検討が必要だと感じました。

歩〜夢内で交際している利用者の支援に力を入れました。個々の話を聞いてお付き合いをしていくうえでの約束事などをお伝えしてきました。また交際から結婚など当人のニーズを反映できるようなグループホーム作りが必要になると感じた1年でした。



春の BBQ 天気も良くて最高！



忘年会での還暦のお祝い、記念に1枚！

2. 実施事業

共同生活援助事業所（合計定員 46 名）※宿泊体験 5 名含む

春が来た荘	定員 5 名	現員 3 名（宿泊体験 2 名）
夏色荘	定員 5 名	現員 5 名
秋いろいろ荘	定員 4 名	現員 3 名（宿泊体験 1 名）
桜なごみ荘	定員 4 名	現員 4 名
もみじ色づき荘	定員 5 名	現員 4 名（宿泊体験 1 名）
ふきのとう	定員 3 名	現員 2 名（宿泊体験 1 名）
みないい荘	定員 4 名	現員 4 名
虹のかけはし荘	定員 5 名	現員 5 名
波のり荘	定員 5 名	現員 5 名
ゆめばえ荘	定員 5 名	現員 5 名
ゆめばえサテライト	定員 1 名	現員 1 名

春が来た荘



秋いろいろ荘



夏色荘



桜なごみ荘



もみじ色づき荘



ふきのとう



みないい荘



虹のかけはし荘



波のり荘



ゆめばえ荘



3. 令和6年度の利用状況

※定員46名（宿泊体験5名：4月～3月）※年間365日

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	39	40	40	40	41	41	41	41	41	41	41	41	
開所 日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
延利用 回数	1,129	1,174	1,160	1,179	1,133	1,150	1,218	1,181	1,180	1,147	1,064	1,190	13,905

※平均実利用者数 38.8名（小数点第2位以下切り上げ）

※令和6年4月から令和7年3月までに入居された方は男性3名、女性2名でした。

※高等養護学校からのニーズがあり宿泊体験利用の実績が増えました。

※宿泊体験

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	5	3	5	6	4	6	5	4	4	4	2	7	
開所 日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
延利用 回数	19	16	32	36	11	20	28	11	9	9	6	45	242

宿泊体験の利用については、入居を視野に入れた体験的利用に加え、ご家族の事情やご葬儀への参列などの緊急的な相談も受け、より多くの希望に対応してきました。体験終了当日に次の利用者を受け入れるために急いで準備をしたり、3住居同時に受け入れるための準備・寝具や家具の設置など、世話人さんを含む職員の努力の成果でもあります。

4. 取組みの概要

■利用者支援

1. 行動面の変化と対応

利用者の加齢等に伴い、性格傾向やこだわりが強くなり、日中活動やグループホーム内で職員との関わりの中で、自己主張が強くなる場面があります。その都度面談を実施し、医療機関とも連携を取りながら対応しています。

2. 健康管理の取り組み

年齢とともに高血圧や肝臓・腎臓の機能、血糖値などの生活習慣による健康リスクが高まっている利用者が増加しており、日々の食事や間食の改善を促していますが、本人の理解を得るのが難しいため、健康の重要性や放置による病気のリスクを説明し、医療機関と連携しながら薬による治療も行っています。

3. 食事に関する支援

自閉傾向などにより、偏食や食べられるものが限定される利用者については、食事のアレンジやメニューの工夫、食べられる環境を記録したり職員間で情報共有をしながら、健康維持の観点から支援を継続していきます。



イベントに参加！



みんなで鍋パーティー！

仲間と暮らすって楽しい♪

■権利擁護

職員同士お互いに忌憚なく発言できる雰囲気をつくることを心掛け、日頃から利用者さんに対する言葉の使い方・接遇・支援の在り方についての考え方や意見に触れる機会を持ちました。日中事業所との連絡帳で生活の様子を知らせる際の言葉使いや表現の仕方を見つめ直し、日ごろの言葉・表現から気を配るように取り組みました。また、職員会議で権利擁護についての内部研修を実施しています。

■苦情解決委員会

今年度、苦情の受付はありませんでした。

苦情としての受付はないが要望が多く日常の相談から必要な支援対応を行っています。また職員が未然に状況を察知して対策を講じた事例もあり、その為苦情には至らなかったケースもありました。歩〜夢では、職員が常駐して支援する住居と、巡回による支援の住居がありますが、巡回のみでは対応しきれず、不満に繋がった場面もあったのではないかと思います。巡回の支援に多少の限界を感じる場面も少なくありませんが、苦情や不満が少なくなるように利用者さんとの円滑なコミュニケーションと、レスポンスを速める努力の重要性を感じています。

■感染症対策

感染症対策はこれまで同様に、マスク着用、うがい、手洗い、消毒の声がけや住居の換気等の支援を継続して取り組んでいましたが、コロナ感染者が発生してしまっています。同居者全員に感染することとなり、収束しています。また胃腸炎が蔓延し嘔吐物の処理の仕方や居室の換気、消毒など感染予防の意識や理解・感染予防の必要性を伝えていくことが大事と再確認しました。

■災害対応・事故対応

各住居にて火災想定避難訓練を実施しています。火事の発見からスタートし、大声で皆に知らせる練習から、電話通報、外の安全な場所までの避難を行っています。訓練の前後には避難するときに気を付ける点を説明しました。利用者さんからも質問や感想を聞き、訓練の大切さを伝えています。



■年間行事

令和4年度	内 容
4月～令和6年3月	各住居ごとでの誕生日会を実施 教育大学運動プログラム実施（隔週）
5月3日	GW バーベキュー（たのしいどう駐車場）
5月4日～6日	GW 個別希望外出
5月17日	クリーニンググリーン作戦2024参加
8月11日～15日	お盆休み個別希望外出
10月5日・12日	赤い羽根募金
11月17日	フレンドカレッジ参加
10月18日～19日	歩～夢旅行 in 定山溪
12月26日	歩～夢大忘年会 in うしじま
令和7年1月1日	初詣（岩見沢神社）
1月1日～5日	年末個別希望外出
2月14日	お菓子作り
2月18日	火災避難訓練（全ホーム）
3月8日	モルックチャレンジ in くりさわ

たくさんの思い出



盆踊りで出店！



フレンドカレッジ！



人生初のモルック！初戦トーナメントで敗退！





バレンタインデーに向けてお菓子作り！



赤い羽根共同募金！



定山溪旅行！



クリーングリーン作戦！

■諸会議

- ・法人全体会議・・たのしいどうにて月1回実施。
- ・世話人会議・・月1回の開催は難しく、2回の開催にとどまりましたが、内1回は生活支援、権利擁護についてのミニ研修を実施。
- ・個別支援計画策定会議・・個別支援計画作成時に1ケースごとに実施。計画原案をもとに支援内容等について検討しました。
- ・ケース会議・・日々の利用者支援について検討を行ない、支援を実施しています。
- ・企業就労担当会議・・定着支援のほか、就職・転職の支援について情報を共有して、支援の方向性を話し合っています。

- ・権利擁護担当者会議・・毎月の報告書を確認し、参考資料等があれば随時配布して全員で情報の共有を行なっています。

■健康管理

今年度、定例の健康診断は感染状況を確認しながら7月に実施し、利用者の再検査等の対応を行なっています。今年度は、岩見沢市の特定検診に該当する利用者が10名おり、がんなどの検査項目を増やして検診を受けています。再検査となった方が多く、協力医と連携して再検査を実施しています。その中で大きな病気が見つかり、入院・手術となった方が1名いました。

利用者の年齢が上がるにつれ、高血圧、肝臓、腎臓、血糖値の数値が上がってきているため食事や間食など気を付けるよう本人と話しを行っています。また協力医や看護師としっかり連携し、病気の予防と早期発見に努めたいと思います。

■支援記録

各住居の支援日誌や日中事業所の連絡帳、業務日誌などは利用者の日々の体調や心の変化を共有するツールでもあることから、確実に記録を残し、正確に引き継ぎを行なうように留意しました。また、日中活動との連携の為、連絡帳を用いて生活の様子や体調の変化、帰省等の予定などの記載を行なっています。

ご家庭と連絡・調整は、電話やメール・連絡帳を利用し、日々の様子の報告や相談をさせて頂きました。ご家庭からも様々な返答が記載されており、通院や次回帰省の日程などを職員間で周知しました。

■施設整備状況

今年度は、4月に男性の住居「ゆめばえ荘」を開設し、住居の更新と居室を整備しました。

令和6年度 地域生活支援事業 事業報告

■ 楽らく（たのしいどう併設）

1. 令和6年度事業の総括

岩見沢市より指定を受けて実施している日中一時支援事業「楽らく」は、三笠市、栗山町の3市町村と今年度も委託契約をしています。令和6年度からは、各事業所で日中一時事業の開催をしています。各事業で取り組む事で、利用者さんの特性に合わせた支援も出来ました。外出メニューでは、普段とは違う充実感や楽しみの提供へと繋がっています。



栗山公園での様子

2. 実施事業

□ 日中一時支援事業定員20名（岩見沢市以外の定員は契約内容に基づく）

3. 令和6年度の利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	17	10	14	9	5	6	8	9	6	6	8	9	
延利用回数	33	17	36	21	12	8	17	18	7	15	20	27	231

土曜午後の時間を活用した余暇支援を46回年間で実施しました。

4. 取組みの概要

今年度は、人気メニューのボーリングやカラオケにも行っています。ボーリングでは、自身のボールや靴を持参する方もいた事やボールを投げ、皆の歓声が響き渡り、他の方と喜びを分かち合っている姿も見られ、とても満足そうに参加されておりました。お菓子作りは、参加者が多く、季節や旬の食材を使ったメニューを毎月提供し、楽しみながら作っています。外出メニューでは、岩見沢市開催



ドカ雪祭りの様子

の「岩見沢ドカ雪祭り」にも行く事が出来、寒い中でしたが、自分へのご褒美として、美味しい物を自身で選び、食べる事で充実にも繋がるよう、様々な体験を提供しています。創作を楽しみにする方もいて、メニューの希望も聞き取り、取り組みました。

5. 成果

人気メニューのボーリングやカラオケでは、交流の場として盛り上がる楽しみがあり、皆と共有できる楽しみも充実感となっています。その他に季節を感じられる外出メニューも数回実施できています。自然に囲まれた外で過ごす時間も、日々の環境とは異なり、特別な時間を感じられる、有意義な時間を過ごせたと思います。経験を通し、たくさんの笑顔が見られています。



ボーリングの様子



カラオケの様子



雪だるま作りの様子

6. 課題

実施出来る時間に限りがあるため、外出メニューの幅が広がっていないと感じています。感染状況が落ち着いてきたことで、今後イベントも増えてくると思われますので、近隣の情報を把握し、新しい取り組みも行なえるよう工夫できたらと思います。利用者さんの選択する楽しみが増える様、皆さんからの希望も組み取りながら、余暇の提供を今後も考えていきます。



お菓子作りの様子



制作の様子

■うきうき（きっちんどう併設）

1. 令和6年度事業の総括

岩見沢市に7月より指定を受け、日中一時支援事業「うきうき」を実施しています。岩見沢の他に、三笠市とも委託契約をしています。きっちんどうの館内で、お菓子作りや創作、外出メニュー等を色々企画し、週末の楽しみが少しでも増えるようメニューも工夫しながら提供しています。



ドカ雪祭りでの様子

2. 実施事業

□日中一時支援事業定員20名（岩見沢市以外の定員は契約内容に基づく）

3. 令和6年度の利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数				6	7	6	7	7	6	4	6	6	
延利用回数				15	19	14	17	15	9	13	18	19	139

土曜午後の時間を活用した余暇支援を50回年間で実施しました。

4. 取組みの概要

今年度は、「うきうき」として、日中一時支援事業の提供を申請し、きっちんどうの利用者さんと職員で、余暇時間を楽しんでいます。人気メニューのカラオケや道の駅ドライブ、由仁ガーデン散策等、利用者さんからの行きたい場所や作りたいお菓子等を調査し、少しでも意向に沿えるような工夫も行なっています。今年は、地域のごみ拾いを余暇として、「クリーングリーン作戦」として実施しています。余暇の時間を利用し、様々な体験を提供しています。



クリーングリーン（地域のごみ拾い）の様子

5. 成果

各事業所で実施することで、1回に利用する人数が少なく、メニューの幅が広がり、外出時の臨機応変な対応も可能となっています。一人ずつの要望にも対応しやすくなり、お菓子作りでは、1種類ではなく、2種類のお菓子を作る等、楽しみもより増やすことが出来ています。短い時間の中ですが、充実した時間が提供できたと感じています。



栗山公園や由仁ガーデンの外出時の様子

6. 課題

実施出来る時間に限りがあるため、外出で行ける範囲が限られてきます。より地元や近隣のイベント情報収集が、メニューの幅を広げるためにも大切だと感じています。季節の創作やお菓子作りも、前年度と内容が被らないよう、より興味を持ってもらえるような工夫が重要だと感じています。



秋の創作や風鈴作りの様子

お菓子作りの様子

■らんらん（あかるいどう併設）

1. 令和6年度事業の総括

岩見沢市に7月より指定を受け、日中一時支援事業「らんらん」を実施しています。岩見沢の他に、南幌町とも委託契約をしています。あかるいどうの館内で様々な創作やお菓子づくり、外出メニュー等を色々企画し、週末の楽しみが少しでも増えるように工夫しました。また、あかるいどうでは、ご家庭の都合による夕方の一時的なニーズもあり、ご本人の好きな創作活動を選んでもらい、お迎えまでの時間を過ごしました。

2. 実施事業

□日中一時支援事業定員20名（岩見沢市以外の定員は契約内容に基づく）

3. 令和6年度の利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数				4	3	4	6	5	1	1	5	4	
延利用回数				11	5	4	11	9	1	1	9	6	57

土曜午後の時間を活用した余暇支援を年間14回実施し、夕方の一時的な支援を16回実施しました。

4. 取組みの概要

今年度は、「らんらん」として日中一時支援事業を開設し、あかるいどうの利用者さんに余暇を楽しんでもらっています。特に外出企画とお菓子作りは人気がありました。お菓子作りは、季節や節句に合わせて、あかるいどうの設備で出来る内容でメニューを考えました。カラオケ外出では少人数で個室に入り、自分で好きな歌を自由に選んだり、職員と一緒に選んだりしながら、とても楽しそうに参加されていました。また、創作のメニューも季節感を大切にしながら企画しています。



季節を感じる創作

5. 成果

人気のある外出企画は、普段一人ではなかなか外出が難しい利用者の皆さんの貴重な余暇時間となっています。岩見沢市内で開催されるイベントや近隣地域のお祭り、季節の果物狩りなど様々なメニューで充実した時間を過ごすことが出来ました。



外出企画での一コマ

6. 課題

参加される利用者さんが徐々に限定的になってきていることを感じています。多くの利用者さんが参加したくなるようなメニュー作りを心がけていきたいと考えています。市内や近隣地域のイベント情報や社会のトレンド情報も取り入れて、利用者さんの選択する楽しみも提供できるように取り組んでいきます。



大好きなお菓子作り